

## ハワイ島小学校視察報告

ビッグアイランドの愛称で呼ばれるハワイ島にある Chiefess Kapiolani 小学校を視察した。

Bob Hill 校長が親切に説明と案内をしてくださった。ハワイ島第2の都市 Hilo にあるこの学校の生徒数は400人弱である。年中1クラスから6年生まで、年長からは各学年3クラス程度である。85%が福祉給食を受けていて、ほとんどの子供が貧困家庭から来ている。その昔はサトウキビ栽培で栄え、今はキラウエア火山で有名だが、ほとんどの旅行者がワイキキからの日帰り客なので、経済がオアフ島と比べ停滞している。



ミクロネシア、マーシャルアイランド、フィリピン、中国、日本などのアジア・太平洋諸国からの生徒が73%を占め、ヒスパニック10%、白人9%、混血8%等である。先生は生徒14人当たり1人である。

Education.com

授業は大体7:55から2:05。英語が母国語でない子はESLのクラスにテストに合格するまで在籍するが大体3~5年間かかる。現在4人のESLの先生がいる。

毎週ハワイ文化のクラスが30分間ある。Readingと算数のクラスはレベルに分けて、他のクラスの先生と教え合う。月~木曜日は宿題が出るが、金曜日はでない。パソコンの学習ソフトは家でも使えるようになっている。サマースクールを生徒は無料で受講できる。先生は手当が支給される。

人種の偏見も少なく、異人種間の結婚も多い地である。そののんびりした町で素直に育っているといった感じの子供たちに出会えて、穏やかな気持ちにさせられた。



あぜりあ Language School 校長勝山ひとみ